



PRESS RELEASE

岡山大学記者クラブ

文部科学記者会

科学記者会

御中

平成 30 年 11 月 8 日

岡 山 大 学

報道解禁：平成 30 年 11 月 10 日（土）午前 0 時（新聞は 10 日朝刊より）

日本の結核の動向を詳細に解明 結核撲滅に向けての取り組み、加速が必要

◆発表のポイント

- ・ 1997 年～2016 年の 20 年間に於いて、日本国内の結核の新規登録患者数および死亡者数は減少しました。
- ・ 男女ともこの 20 年間で同様に減少しましたが、国際的な結核撲滅の目標を達成するには一層の取り組みが必要であることが示唆されました。
- ・ 本研究成果は結核撲滅への取り組みに活用されることにより、SDGs の達成において国内外への貢献が期待されます。

岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科の狩野光伸教授と大学院医歯薬学総合研究科の小山敏広助教の研究グループは、国内外の研究機関と医療機関の研究者（札幌医科大学 樋之津史郎教授、大阪大学 朝野和典教授、萩谷英大助教、徳島大学病院 座間味義人准教授、千葉大学病院 三上奈緒子氏、岡山大学病院 千堂年昭教授、北村佳久准教授、建部泰久氏、University of Minnesota Medical School 港 雄介博士）との共同研究において、これまで不明であった日本国内の結核の罹患率や死亡率の長期的な傾向を、詳細に明らかにしました。

結核は不治の病と恐れられてきましたが、現代でも世界で毎年約 1000 万人が罹患し、約 160 万人が死亡する世界三大感染症の一つです。本研究グループは、1997 年から 2016 年の 20 年間に於ける、日本国内の新規登録患者数と死亡者数を調査。男女とも、この 20 年間で新規登録者数と死亡者数が減少していることが判明しました。本研究成果は、2018 年 11 月 9 日現地時間午後英国の医学誌「*Epidemiology and Infection*」に掲載されます。

◆研究者からのひとこと

今回の研究は内外の 7 大学・大学病院の研究者による、SDGs の達成へ貢献するための共同研究です。結核の撲滅は国際的な目標です。さまざまな研究者の視点を取り入れ、医療ビッグデータを活用することで、日本だけでなく世界の人々に貢献することができると期待しています。



小山 助教



PRESS RELEASE

■発表内容

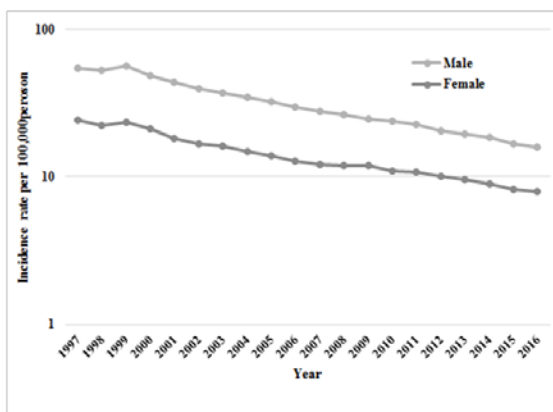
＜現状＞

結核は古来より不治の病として恐れられてきましたが、感染率の高さや薬剤耐性株の出現などから、現代でも世界中の公衆衛生的脅威と認識されています。世界で毎年約 1000 万人が罹患し、約 160 万人が死亡する世界三大感染症の一つであり、発展途上国のみならず先進国においても結核の罹患率・死亡率が依然として高い地域は多く、撲滅に向けた国際的な協調による取り組みの重要性が強調されています。

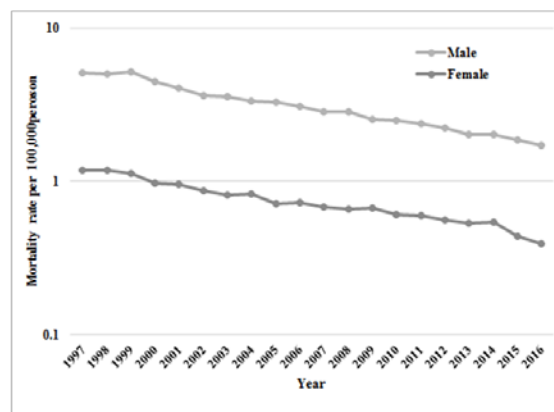
＜研究成果の内容＞

狩野教授・小山助教らの研究グループは、厚生労働省の人口動態統計および公益財団法人結核予防会結核研究所疫学情報センターが公表している新規登録患者数の統計により、1997 年から 2016 年の 20 年間に於ける日本国内の結核の罹患率や死亡率の長期的な傾向を調査。この 20 年間で男女とも結核の新規登録者数と死亡者数は減少し、その減少速度（年間変化率）は男性ではそれぞれ-6.2%、-5.4%、女性ではそれぞれ-5.7%、-4.6%であることが判明しました。これは、結核の伝播・拡散を防ぐための地道な保健衛生活動や、結核の発症・進行に悪影響を及ぼす基礎疾患の管理向上によるものと推測されます。

10万人当たりの新規罹患患者数の男女別推移



10万人当たりの死亡者数の男女別推移



男女ともに着実に結果による新規罹患患者数および死亡者数は減少している。

その一方で、先進諸国と比べると日本はいまだ高い水準にあり、結核撲滅には一層の対策が求められます。しかし、世界的に見ると、依然として結核の罹患率・死亡率が高い地域が存在し、戦後蔓延した状況から劇的に改善した日本の経験は多くの途上国においても役立つものと考えられます。結核撲滅に向けて、日本の取り組みを世界に広める必要があるといえます。

＜社会的な意義＞

本研究の成果は、国連の持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals; SDGs）における「3. すべての人に健康と福祉を」の目標達成に寄与するものです。日本国民だけではなく、諸外国にと



PRESS RELEASE

っても、長期的な結核の動向を詳細に明らかにする学術研究は、各国での取り組みに先行する好例となり、結核撲滅を達成する上で有益なものとなります。

■論文情報

論文名 : Trends in incidence and mortality of tuberculosis in Japan: A population-based study, 1997–2016

掲載紙 : *Epidemiology and Infection*

著者 : Hideharu Hagiya, Toshihiro Koyama, Yoshito Zamami, Yusuke Minato, Yasuhisa Tatebe, Naoko Mikami, Yusuke Teratani, Ayako Ohshima, Kazuaki Shinomiya, Yoshihisa Kitamura, Toshiaki Sendo, Shiro Hinotsu, Kazunori Tomono, Mitsunobu R. Kano,

D O I : 10.1017/S095026881800290X

U R L : <https://doi.org/10.1017/S095026881800290X>

<お問い合わせ>

岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科
教授 狩野光伸

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
助教 小山敏広
(電話番号) 086-235-6585



岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY



岡山大学は、国連の「持続可能な開発目標 (SDGs)」を支援しています。